

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0491200135		
法人名	株式会社 只野製作所		
事業所名	グループホーム きずな		
所在地	宮城県登米市豊里町新町10-4		
自己評価作成日	平成27年1月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成27年3月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境のもと、利用者様とスタッフが信頼しあい、笑顔で過ごせるようにそして「ここで過ごせてよかった」と思っていただけのような環境作りを目指しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは開設4年目、近隣に病院や中学校がある大通りから離れた静かな環境にあり、運営法人の只野製作所が、隣接しており、福祉用具貸与サービスも実施している。今年1月に、新人職員を含め全員で見直した「心から信頼し、心から笑えるように」の理念に沿って、職員が寄り添い笑顔で接することにより、利用者がリビングで過ごす時間が増えた。職員全員で理念を検討したことにより、日々の介護にも理念を意識するようになり、利用者主体の介護に変わっている。開所以来課題だった地域との連携も、地区との防災協定を結び、「町内会緊急時連絡網」を作成するなど、地域に根ざしつつある。避難訓練や事業所主催の「夏祭り」にも、多くの住民が参加し交流が図られている。利用者家族が話しやすい環境作りを心掛け、信頼関係構築に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームきずな）「ユニット名」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフの入れ替わりが4人あり、理念の共有を図りながら実践に繋げるようにしている。	今年1月に全職員で改定した「利用者様とスタッフが心から信頼し、心から笑えるように」の理念を玄関やトイレの目につくところに掲示し、利用者を主体にしたケアを実践し、利用者に寄り添うことを意識している。年1回見直している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの来居や利用者様散歩時、近隣住民の方とあいさつ等で交流を行っている。大きなイベントの時は近所の方を招いている。	町内会に加入し、花植えや一斉清掃、敬老会等にも参加している。事業所の夏祭りには多くの住民の参加を得、地域との関わりを深めている。防災協定を結び、「町内会緊急時連絡網」を作成するなど、日々の交流を心掛けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の敬老会参加時や、利用者様と散歩する際、ボランティア来居時支援の方法を理解して頂いていると思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回現状を報告し、市や区長、利用者様代表からのアドバイスや意見を活かしている。	2ヶ月に1回開催し、町内会長、区長、民生委員、地域包括職員、市職員、家族代表が参加している。利用者の状態、行事、事故等を報告し、意見交換し、参加者からもインフルエンザやノロウイルスの対応の情報やアドバイスがあり、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政の意見を聞いたり、問題が発生すれば報告している。生活保護の係とも必要に応じて連絡を取り合っている。	市職員は運営推進会議に出席しており、研修などの情報提供がある。外部評価の結果報告や目標達成計画書を提出する等、連絡を密にしている。事故などの報告や生活保護者について相談し、運営状況についてアドバイスをもらうなど、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関に施錠しておりませんし、身体拘束も行っておりません。今後も拘束のないケアに取り組めます。	施錠は17:30～6:50まで、日中は危険防止の必要な所以外は施錠していない。外出傾向を把握し、職員の見守りと声掛けで対応している。身体拘束をしないケアについては、入居時に家族に説明している。研修は今後も行っていく予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士、日々の申し送り等で情報を共有しながら、身体の異常確認を行う事で有無を確認しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前成年後見制度を利用されていた利用者様がおりましたが、現在はおりません。学ぶ機会は持っておりません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に各書類の説明を行い同意して頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けたり、ご家族様面会時は意見・要望を聞き職員間で情報共有に努めています。	意見箱を設置している。家族と話しやすい関係づくりに心がけ、面会時に意見・要望を聞くようにしている。直接、出された意見は、職員で共有して改善に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案は月1回のケア会議や申し送りノート等で共有できるように図っている。また係活動を通じて運営に反映させている。	月1回のケア会議、申し送りノート等で情報の共有を図り、ケアの質や運営の向上に繋げている。応接間を広げたり、ワゴン車を購入する等の提案を運営に反映している。イベント、消耗品、研修、危機・管理・感染・食材、通信の係があり運営について検討しているが、研修の場を設定出来ていない。	介護の質の向上と、運営に関する提案ができる人材育成のために、学びの場の研修の機会を増やす事を期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社実績を考慮して賞与支給を行っている。有資格者には資格手当を支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	平成27年1月スタッフ2名が働きながら初任者研修を終了し資格取得している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内にある他グループホームとはイベント時お互いに利用者様とケア者が参加しあっている。研修会も年1回合同で行っている。地域医療連携の勉強会にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の訴えに対し出来る限り意向に添えるよう配慮しております。また、利用者様の様子観察を行いながら声掛けや話を聴くようにしております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居開始前に利用者様やご家族に意向・可能な範囲での要望を伺い信頼関係を構築できる様に図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な支援を把握し、ケアプランを作成しケアに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な環境を築けるよう、日常生活の中に掃除食器拭き、洗濯たたみなど職員と一緒にしながら共同生活できるように努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回近況報告を送付し、また状況に変化がある場合には現状報告を行いながら、共に支えていくようにしております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	1名の利用者様には、たまに訪ねてくる方がおります。ドライブがてら自宅訪問したことがあります。ドライブがてら自宅を忘れていた利用者様もおり実践に結びついておりません。	遠方の利用者が多く、馴染みの場所が少ないので、近くの衣料品店に買い物支援を行ったり、ドライブで気分転換を図ったりしている。訪ねて来る家族が気兼ねなく過ごせる様に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	エプロンをかけてあげたり、他利用者様の代わりに訴えを伝えてくれたりコミュニケーションのとれる利用者様がいる反面、話しかけても会話が無い利用者様もいるので声掛けにてリビングへ来て頂いております。体操への参加率は高いです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院への入院による契約終了された利用者様には次の施設への問い合わせなどを行いながら支援に努めております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の何気ない会話の内容や希望・意向を傾聴しその人らしい生活が送れる様に配慮しております。	職員が、様々な場面で希望や意向を把握する様にしている。会話の困難な利用者とは、メモでやり取りをしたり工夫している。食事の片付けなどの日々の暮らしや、作品作りなどの趣味を通して利用者の生きがいをづくりを支援している。町主催の文化祭に出展し見学にも行った。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や本人から情報を集めこれまでの暮らしの把握に努めているが、長く一人で暮らされていた利用者様の把握は難しい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録・申し送り等で把握した後、表情や行動の観察を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様・ご家族の意見や要望と職員が把握している現状を考慮し利用者様がより良い生活が出来るように計画作成し、3ヵ月ごとに見直ししている。	毎日ケア記録をつけ、振り返る事によって利用者の状態を確認する機会となっている。介護計画は利用者・家族の要望や意向、日々の様子を考慮し3ヶ月ごとに見直し、短期・長期の目標を立て、家族の同意を得て、職員で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人観察記録を行い、日々の申し送りの際変化点などの情報共有を行っており、その内容を網羅して介護計画の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の思いや、体調の変化に合わせた支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関わりはまだ不十分ですが、散歩時のあいさつや短い会話の中から地域の温かさを感じております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診時はスタッフが同行し身体状況を伝えております。受診内容は記録に残し必要時にご家族へ連絡しております。	かかりつけ医は、協力医療機関の利用者が多く、月1回の受診時には職員が同行して対応している。受診の結果は記録し家族に説明している。協力医療機関以外の受診は、家族が付添い、受診後は報告を受け、情報を共有しケアに活かしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師訪問の際は各利用者様の身体状況を報告し指示を仰ぎながら利用者様のケアに努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換や相談に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と相談を行い、協力医療機関との連携を図りながら対応しています。	入所時に、重度化における対応について説明している。看取りの実績はないが、今後は家族の意向を汲みながら看取りの指針作成や研修を重ね、検討していきたいと考えている。協力医療機関の訪問看護ステーションから、週1回看護師の訪問がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新人スタッフ4人についてはまだ訓練を行っておりません。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署立会いのもと、夜間想定も含めて消火訓練・通報避難訓練を実施しております。また消火訓練には近隣の方、町内会の役員の方々にも参加して頂いております。	マニュアルがあり、夜間想定訓練を含めて年2回消防署立ち合いのもと実施している。訓練で毛布が必要など課題も見つかった。「町内会緊急連絡網」の通報確認を行うと共に、近隣の方の参加もある。スプリンクラーや消火器等々の防災機器は年2回点検している。備蓄品は約1週間分用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	土地の言葉で話しかけておりますが、誇りを傷つけない様にしております。居室への出入りは了解を得てから行い、排泄介助はさりげなく行っております。	居室はそれぞれ花の絵で表示しており、排泄介助等もさりげなく居室やトイレに誘導し、尊厳を損なわない様に配慮している。プライバシー保護についての研修を行うことを、今後検討している。名前にさん付けで呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望をできる範囲内で対応するように心がけております。「何々しませんか」「どこどこへ行きませんか」と自己決定できるように声掛けしております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿って行うようにしておりますが、口数の少ない静かに過ごされる利用者様については、職員の都合を優先してしまうことがあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれの好きな利用者様にはマニキュアやマフラーでおしゃれが楽しめるように図っております。2か月に1回散髪を実施しております。着替えもなるべく利用者様の意向に沿うようにしております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	咀嚼に合わせてお粥や副食を細かく刻んで食べやすくしたり、むせ込まない様にトロミを補って食べやすいように配慮しております。外食や弁当で変化を付けております。皮むきや片付けなどできる範囲内で利用者様も行っております	食材宅配業者に委託しているが、月30回は、担当者が利用者の希望や季節・行事に合わせて食材を購入し、調理し、提供している。お粥・刻み食等本人の状態に合わせ、体重変化にも気を付けている。利用者は、職員と食卓を囲み和やかに食事し、食後の片づけも出来る範囲で行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重が少ない利用者様には栄養補助食品をご家族了承のもと補っております。水分量の少ない利用者様には口に合った飲み物を準備し摂取して頂けるように努めております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回の口腔ケア、2回行う利用者様、スポンジブラシによる口腔ケア等個別に応じた口腔ケアを行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位困難にてオムツ使用の利用者様もおりますので皮膚状態の確認を行っております。失禁による衣類の汚染、便座、周辺汚れが確認された利用者様についてはその都度対応しております。	排泄パターンを把握して支援している。オムツ使用の利用者は清潔に保つことに気を付けている。便秘ぎみの利用者には、漢方薬やヨーグルト・水分の摂取に気をつけ対応している。夜間は本人の意思に任せ、トイレに起きた時の介助をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつにヨーグルトを提供したり、食事では野菜を多く摂取できるようにしております。便秘の利用者様は医師処方薬を服用して頂いております。毎日ラジオ体操・リハビリ体操を行っております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	通院時や外泊時は前日に入浴しております。希望に合わせた回数で入浴しております。	基本は週2～3回であり、利用者の希望で決めている。浴室、脱衣所も含めて温度管理に気を付けている。入浴拒否の利用者には声掛けを工夫して週2回は入れるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明・温度・湿度、布団の調整を行い安眠して頂けるように配慮しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は一包化にし日付をつけて誤薬防止を図っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯たたみ、食器拭き、縫い物、編み物テレビ鑑賞、ゲームなどできることの喜びや、達成感を活かせる様に図っております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別支援で月1回はドライブや買い物、食事等で外出できる様に図っております。	花見、芋煮会等でのドライブ外出は楽しみの一つになっているが、買い物、外食等個別支援が多く、事業所全体での外出の機会が利用者のADLの低下と共に減少している。暖かい時期は、近隣の散歩をするなど気分転換が図れるように支援している。	職員の希望で購入した8人乗りのワゴン車を有効に活用して、年間を通して利用者が楽しむ外出支援を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持している利用者様もおりますが、小遣いは管理し必要に応じて支出しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様からの要望を受けた場合、職員を介し電話し会話されております。利用者様の希望に応じて支援しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感・季節感が感じられる様配慮するとともに温度・湿度・テレビの音などにも気を付けております。	共用空間は天井が吹き抜けになっており、明るく清潔に保たれている。利用者の作品や共同制作作品を展示するなど、利用者が長時間過ごせる居心地の良い空間になっている。加湿器も2台設置し温・湿度管理に気を付けている。利用者の通り道には物を置かない様に気を付けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者様同士で居室で会話されていることもあります。一人になれるのは居室のみとなっております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に写真を貼ったり、テレビを設置されたり一人一人に合わせた居室作りを行っております。	家族と利用者の意向にそった居室づくりに心がけている。家族や行事ごとの写真、自身の作品、お花等を飾ったり、位牌、小物、テレビ等を持ち込んでいる利用者もいる。室温管理や掃除は職員が行い、安全で居心地の良い居室に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	引き戸に手を挟まない様にストッパーの取り付けやクローゼットの2つ取っ手をの取り付けを行い安全に配慮しています。居室に手すりを設置し立ち上がりが安全に行えるよう工夫したり、トイレに目印を付けて分かり易いようにしております。		